OUJ神奈川学習センター
なつだより

通巻第43号　　2010年7月発行

発 行：放送大学神奈川学習センター　〒232-0061横浜市南区大岡2-31-1

観音崎灯台（三浦半島／横須賀市鴨居）

目次

三浦半島・海藻の四季	2～3
面接授業「イタリア歌曲の楽しみ」	4～5
県立外語短期大学「貿易商務」～単位互換特別聴講～	5
藤原一繪先生のセミナーに参加して	6～7
ナマハゲ来たる	7
シリーズ「学びのすばらしさ」①② （学ぶことと教えること／放送大学というビーグル号に乗って）	8～9
学生生活に関するアンケート	10～11
「サポーター」活躍中！／Kーサポートからのお知らせ	12～13
学生サークルからのお知らせ／同窓会からのお知らせ	14～15
学習センターからのお知らせ	16

三浦半島・海藻の四季

自然の理解専攻　高橋　昭善

はじめに

「海藻（藻類）とは、からだに葉や茎、根の区別が見られず、花を咲かせず、果実や種子をつくらない有色（緑色、褐色、紅色）な植物群をいい、かつ海中に生えるものをいう」※[1]とされるように、海藻は陸上に生育する植物とは異なり、たいへん地味な植物群です。のみならず、潮の干満影響を強く受けるところから、我々が目にする時間帯は限られ、多くの人にとって、食材としての海藻以外、興味や関心をもつことはほとんどありません。

ところが私たち祖先は、遠い万葉の時代から海藻とは多くのかかわりをもってきました。食用はもとより、詩歌に詠んだり、魚貝類の餌、さらには神饌に供したりと、海の恵みに感謝しつつ大切に扱ってきました。今日、海藻は食のほか、環境保全にとっても大事な役割を担っています。

そこで三浦半島沿岸における海藻の四季をかいつまんでスケッチしてみました。なお海草は訓読みで「うみくさ」と呼び、顕花植物であり、音読みの海藻「かいそう」とは分類群では大きな違いがあります。

冬から春へ

・ベンテンアマノリ

早春の毘沙門海岸です。海水温は冷たく、ときに寒風が強く吹き抜けます。それでも磯は春へ向けて、緑色のヒトエグサやアナアオサが岩礁帯を彩っています。

そうした岩陰でイワヒゲに付いている淡い赤紫色の紅藻のベンテンアマノリ（円形でその径は1cmほど）がみられます（写真1）。

この海藻は江ノ島の弁財天付近の海中で発見されました。そこからこの名前がつけられています。冷たい海水の波間にゆれるその様は、どこか色っぽさがあり、音楽を好み、知恵や財産を司る、弁財天を彷彿させる不思議さがあります。

・ヒトエグサ

やわらかい日差しのもとで、早春の磯を一面に彩っているのはヒトエグサです（写真2）。

淡い緑色で4月はじめごろまでが、まさにわが世の春。顕微鏡で細胞をみると一重に細胞が並んでいるところからこの名前がつけられました。やわらかい手触り感があり、無理にひっぱると破れそう。海苔の佃煮の原藻。この仲間を沖縄ではアーサーと呼び商品化しています。味噌汁に入れると、放射状にうつわいっぱいにひろがり、潮の香りが食卓にただよいます。

・ワカメとヒジキ

やがて3月、半島の西海岸から相模湾を隔てて、かすみの中に富士山が見られるようになると、ワカメとヒジキの季節。半島全体の磯浜は賑やかになります。

早朝、磯船はワカメの刈り場へ急ぎます。午前の10時前後に帰港。直ちにワカメを水揚げし熱湯に入れます。瞬時に濃緑色になったワカメを家族総出で天日干しにします（写真3）。ワカメは半島の特産品。特に近年、めかぶにフコイダンが多く含まれるところから商品価値が出て株全体が大事に扱われるようになりました。

また、三浦半島のワカメはDNAの塩基配列の調べから米国カルフォルニアにも存在していることがわかりました※[2]。三浦半島とはどのような行き来があったのでしょうか。ただ我が国では貴重な食材であっても米国では公害藻扱いのようです。やや心配でもあります。

潮の香りを存分に含んだヒジキも半島特産物の一つです(写真4)。この時期、刈り取ったヒジキは、にがりを消すために、大きな鉄釜に入れ、ぐらぐらと4～5時間茹でます。その後釜から取り出し天日干しにします。黄褐色は黒色に。特に佐島が有名です。なお、現在我が国では、必要とされるヒジキの7割は韓国産が占めている※[3]といわれます。

春から夏へ

・マクサ

食物繊維が豊富に存在するマクサとは世間でいう天草のことで、寒天あるいはトコロテンの原藻です。初夏の大潮時、鎌で刈り取ったマクサを、数日間、真水をかけかけして天日に晒します(写真5)。やがて白味を帯びたマクサは、幾多の作業工程を経てトコロテンとして我々の口に入ります。半島の天草は多少固めのトコロテンになり、街に出回る品では味わえない高級感があります。なお寒天は江戸時代、参勤交代の時、ふとしたきっかけで山城の国、伏見で考案されたものです。まさにセレンディピテーです。トコロテンから寒天にする作業は、今でも長野県茅野市付近で真冬に行なわれています。

夏から秋へ

・スサビノリ

ビタミン類が多く含まれているアサクサノリは、のり巻用の海藻としてよく知られています。しかし今日、アサクサノリは環境に強いとされるスサビノリに取って代わられています。かつて半島では、材木座海岸や大乗海岸など7～8個所の養殖場がありました。しかし、埋め立てや汚染などで、今では野島海岸(写真6 吉田啓子氏撮影)と走水海岸を残すのみとなってしまいました。スサビノリ(アサクサノリ)の養殖は、日照、海水温、栄養塩など微妙な環境の変化をうけやすいため、運まかせの海苔―運海苔―ともいわれていました。

秋から冬へ

・ミル

ミルは海松と書きます。11月23日、皇居でおこなわれる新嘗祭には、神饌品の一つとして毎年、逗子市小坪湾のミルが献納されています。緑色のミルは、枝ぶりが松のように末広がりで、おめでたい、とされることから用いられるようです。

・ハバノリ

今日、最も貴重種とされる海藻はハバノリです。地元ではハンバ、ジンジゲなどと呼びます。

晩秋から冬にかけて剣崎、大乗、毘沙門、諸磯、三戸浜、長井、佐島などはハバノリ採りが盛んです(写真7)。黄褐色をした笹の葉状のこの海藻は、たいへんに香りがよく、あたたかいごはんにまぶすとその味わいは天下一品といわれています。また小田原や千葉県では、お正月の雑煮の具としてもよく用いられているようです。ただし、近年その生産量は少なく高価です。

・ホンダワラ

ホンダワラの浮き袋は稲の穂に似ているところから穂俵に通じ祝儀飾りに用いられます。

暮れが押し迫る12月半ば、荒崎や小坪の浜では、浅海でホンダワラが刈り取られ、正月飾りとして市場に出荷されます(写真8)。この頃になると街は新年への準備で慌しくなります。

※[1] 千原光雄1978. 植物の世界. 藻類1. 12(139) 朝日新聞社.
※[2] 国立科学館ニュース.2005-9 ワカメにみる我が国と外国とのつながり. 国立科学博物館.
※[3] 大野正夫 2004. 有用海藻誌. 内田老鶴圃.

面接授業「イタリア歌曲の楽しみ」

こんなに素敵な授業があるんだと科目登録申請の時から授業の日が待ち遠しくとても楽しみにしていました。

担当講師の中嶋俊夫先生は横浜国立大学で教鞭を執られる声楽家で艶やかな美しいテノールでいらっしゃいます。学生の中にははるばる遠くから新幹線で参加された方もいて、とてもホットな楽しい授業となりました。

ほんの少し授業のご紹介をさせていただきたいと思います。授業には学生の積極的な参加が求められました。例えばイタリア語で歌を歌います。始めに歌詞を皆で読み合わせ、その後先生から正確な発音・言葉の意味・自然な発声、歌が生まれた歴史的・文化的背景を学びました。

これからもイタリア歌曲研究会として中嶋先生にご指導いただけたら素晴らしいですね、という声が学生の間から聞こえましたがそれきりになってしまったのがとても残念です。また今回の授業が入門編との位置づけでしたら、中級編・上級編とイタリア歌曲の更なる魅力を違った角度からも学んでみたいと思いました。

本当に素敵な授業でした。中嶋先生から素晴らしい歌のサプライズもあり、イタリアの魅力を堪能することができました。中嶋先生にご指導いただけて幸運でした。本当にありがとうございます。同級生の皆様、楽しい授業を共有することができました。また学習センターでお会いできることを楽しみにしています。

（受講生　伊藤 洋子 さん）

4月24日（土曜日）4月25日（日曜日）5月1日（日曜日）応募者が多数で受講できなかった人が多数いらしたようです。名古屋方面からおいでになった方もいました。久振りにお教室で大きな声で歌いました。

皆さん歌うことを楽しんでいるようでした。伊藤洋子さんの文章の中にサプライズとありましたがそれはテノールの中嶋俊夫先生とピアノ塚越裕子さん（横浜国立大学院生）のミニコンサートでした。神奈川学習センターの前にあります　大岡センターの音楽室で開催されました。先生はシルクのシャツに着かえての本格的ないでたちでした。ベッリーニの「優雅な月」やデ・クルティスの「帰れソレントへ」等10曲ほど歌われ、最後に受講者全員で「サンタ・ルチア」を合唱して大喝采のうちに終了いたしました。

（受講生／編集部　赤松 孝子 さん）

続きまして、5ページに、講師の中嶋先生からのコメントを掲載します。

広い講義室で皆さんとともに伸び伸びとイタリア語を発音し、歌曲を歌い、とても楽しい三日間を過ごさせていただきました。第1回の授業の後半でSanta Luciaの歌詞を一行一行読み進めるころには、各自がしっかりした発声でイタリア語の発音のポイントを習得され、授業者として意欲をかき立てられました。

8回の授業内容はかなり広範囲になりましたので、一つ一つの項目や歌曲をもっとじっくり深めたいと感じられたかもしれません。今回は、この先皆さんが、イタリア歌曲について学習を続けていきたいと思われたときに役立つ発音の基礎と、イタリア歌曲の歴史・ジャンルといったアウト・ラインを把握できるよう目標を定めました。

授業で特に伝えたかった内容は、recitar cantando（レチタール・カンタンド）、歌いながら語る、語りながら歌うということです。つまり作品としての歌は何をどう語っているのか、歌う者がそれを解釈し、自分の表現にして伝えることができるということです。音楽は世界共通語という見方がある一方で、それぞれの音楽はそれを生み出した地域、民族、言語、歴史、作者の思いなどが背景にある固有の言語です。そのことを今回の＜イタリア歌曲の楽しみ＞の根幹として捉えていただけたなら幸いです。どうかこれからも情感あふれるイタリア歌曲を歌いつづけてください。

（担当講師　中嶋　俊夫　横浜国立大学准教授）

県立外語短期大学「貿易商務」～単位互換校特別聴講～

神奈川学習センターから南東方向へ徒歩約10分。横浜港も見渡せる丘の上に県立外語短大はあります。同短大と放送大学の相互単位互換制度を利用して、受講し単位を取ることで放送大学の単位として認められる、特別聴講学生として4月から7月まで通学しました。

受講した科目は、「貿易商務」。貿易の実務を学ぶ科目で、講師は、長年メーカーで輸出に携わってこられた非常勤講師の草野英信先生です。

草野 英信 講師

授業は、貿易の仕組みの説明からはじまり、貿易の国際ルールであるインコタームズや、貿易決済として最も信頼性の高い信用状を利用した取引について、長い時間をかけ丁寧に解説されました。授業内容を網羅したプリント、重要なところは板書、船へのコンテナの積み降ろしの場面はビデオ資料を使って、メリハリのある分かりやすい授業です。契約書、船荷証券、信用状等は、サンプル（英文のもの）に、先生の手書きで説明が付けられていました。

若い学生に少しでも社会での実践的な知識を伝えようとする、先生の優しい心遣いを感じました。

女子学生が多い教室は、授業前友だち同士のお喋りで賑やかですが、授業中は放送大と同様に私語がなく、皆さん講義に聞き入っていました。授業内容も、教室の雰囲気も、また通ってみたいと思えるすてきな時間をすごしました。

残念なことに同短大は、来年3月で、短大としては閉学される予定です。みなさんも最後の機会に特別聴講されてはいかがでしょうか？（応募要項は、本誌裏表紙～16ページ～をご覧下さい。）（文：筥崎博之）

藤原一繪先生のセミナーに参加して

伊藤　泰史

今年の4月、神奈川学習センターで、かねてから植物生態学者としてのご活躍を知っていた藤原先生のセミナーについての張り紙を見て、すぐに受付で申し込みました。

5月13日の第1回目のセミナーは学習センターで行われ、先生とK－サポートの取材の方を除くと、受講者は私を含めて3名でした。各受講者がその場で書いた自己紹介兼アンケートを提出すると、先生は書かれた内容に目を通しながら、これから先の予定などを話されました。来年の1月までの毎月1回、90分間ずつ（第1・2回は120分間）のセミナーを行い、「自然の見方」などを学んでいく、というもので、各受講者がそれぞれの課題（テーマ）を決めて、それについて発表する機会もある、ということで、しっかりと取り組む必要があるという気持ちになりました。

6月10日の第2回目のセミナーは、京急弘明寺駅で集合して、駅に隣接する弘明寺公園を歩きながら、先生のお話を伺ったり植物（主に葉）を採集したり、といったことを2時間半以上にわたって続けました。第1回目よりも受講者が増え、先生と取材の方を含めると、総勢9名となりました。出発してすぐ、まだ入口の階段を昇り始めたばかりの所から、先生の詳しくて多面的なお話は展開されました。クズ、コウゾ、クサギ、モミジイチゴなど、林の周辺部に生育する植物の特徴についてや、その芽や実が食用になったり、和紙の原料（コウゾ）となったり、といった人間生活との深い関わりについてのお話でした。もっと公園の内部の方へと進んでからも、その植物が天ぷらにして食べられたり餅を作るのに使われたり、といった食に関する話題になることも多く、その度に、参加者の方からは驚きや感心の声が上がっていました。

大きなサクラ（ソメイヨシノ）の株の前では、株元の土の表面が落葉かきなどのために露出していて、土壌動物のいる豊かな土壌が形成されずに、コケが所々の地表を覆う様子などにも、先生は皆の注意を集めようとされました。人間がサクラのためと思ってする管理が、かえってサクラの根本の土を貧しくしてしまい、サクラの木にとっては害になることもある、というお話は、これからも公園や街の中のサクラの木を見る度に、思い出すことになりそうです。

また、安定した環境であれば、本来はシイやカシの林が成り立つような土地に、アカメガシワやカラスザンショウやミズキなどの樹種が育っている場合、その場所は不安定な環境になっている、という捉え方も、生きた植物を前にして、先生に具体的に教わりました。今後、地域の危険な場所を見抜く目を養うことにも、つながっていきそうです。

今回の観察対象である植物（特に樹木）には、よく似ていて区別の難しいものが多いですが、先生のお話の中では、色々な例で、区別のポイントが示されました。葉の縁のギザギザ（鋸歯）の様子や葉の付き方、ドングリのような果実の形など、実物を前に

してこそ実現できた「生きた授業」だったと思います。

私は、先生のお話の「復習」をしようと考え、このセミナーに参加した後にも2回ほど、弘明寺公園に行ってみましたが、やはり、先生のような「導き手」の存在が不可欠である、ということを、改めて実感しています。

弘明寺公園を9人で歩いた時間は、夢中のうちに過ぎました。途中の所々で発せられる先生の問いには、一人ひとりが自分の頭で考えることを促されました。全て、本当に貴重な経験となり、この企画の実現に携わった、藤原先生をはじめとする皆様には、心から感謝しております。もし可能ならば、先生と共に歩く実地観察の機会が再び訪れることを、心待ちにしたいと思います。

（写真は、弘明寺公園でのセミナー風景ですが
写真と本文は直接の関係はありません。）

ナマハゲ来たる～

放送大学神奈川同窓会主催講演会
「ナマハゲ伝導士はふるさとのPR大使」

吉田　啓子

5月16日、ナマハゲ伝導士さんのお話を聞く機会に恵まれた。

ナマハゲは旧正月の15日の晩、赤と青の恐い仮面をかぶり、身には藁で編んだケデをまとい包丁等々を持ち、大声で叫び、威嚇的横暴な態度で各家々をまわる。

来訪の目的は懲戒的な事ばかりではなく、悪霊を退散させ予祝する事であり、迎える側では福神来訪、歓待の饗応をし感謝して再びの来訪を約束すると言う、今も男鹿半島に伝わる伝統行事との事だそうです。男鹿半島は本山、真山、寒風山と神秘的、異郷感のある山々を持ち山岳信仰の拠点として、又村人も生活を守護してくれる神が鎮座する所として、古代から信仰を篤くしてきたと言う歴史を持つ。ナマハゲは二匹（赤、青）赤は男性、青は女性という夫婦鬼であり、お父さんお母さんがナマハゲとなり子供達を守ってきた様にも見える。ナマハゲ行事には、いろいろな説が存在するらしいが、古代から山村の人々は神を恐れ、且つ崇拝してきた、旧正月には古き神は去り、新しい年の神々に入れ替わり新年の出発を祝してナマハゲはやって来るような気がします。

家々を小刀を持って来訪し、怠け者を脅かし、不届き者を諫める人々は様々な形で神と巡り合い、その荒々しい息遣いに実感し成長してきたものと思います。

現在、私たちは神に巡り合うチャンスは、ほとんどありませんが、人間にとって誰の心の中にも存在する神、恐い中にも凛として何処となくお洒落に見えるナマハゲは、現代人に癒しを与えてくれているのではないでしょうか。

「学ぶことと教えること」

後藤　雄二

放送大の大学院に入学し、初めてのゼミに出席したとき、私は多くの難題を指導教授から投げかけられました。私はある作家の研究をしていましたが、その作家の代表作は戦争文学という側面を持っていました。戦争の本当の意味での悲惨さ、当時の世相、歴史的また政治的背景等、それらに関しては、少しの知識はあったものの、私の眼差しは、極めて不十分な捉え方でした。特に戦争そのものの苛酷さについて、身に沁みる実感を十分に携えていなかった私の返答は、指導教授をがっかりさせるものでした。

「今まで文学で何を学んで来たの？君は問題児だねえ」

指導教授にそう揶揄された私は、スタートしたばかりの研究生活に対して、大変な場所に足を踏み入れてしまったと思ったものでした。しかし、ゼミのたびに、大きな求心力を持つ指導教授の人柄に接し、また、独自の文学観を示す2年次生の先輩たちとの交流も深まり、私はいつのまにか、学べることは何でも学ぼうという積極的な気持ちになっていました。驚くほど読書量も増え、研究に没頭しました。

学習塾の教師として、約20年間、主に中学生の学習指導に従事して来た私は、学習者の視点や姿勢を見失いかけていることを自覚していました。教えることばかりのいわゆるアウトプットだけの涸渇した日常に、インプットによる新しい風を吹き込ませる必要性を感じていたのでした。大学院の門を叩いたのは、そのような気持ちが働いたからでした。結果的に、継続的な学びは、教えることにもよい影響があるということを、単なる一般論ではなく、現実のものとして実感しています。その後、私がより良い教師になれたかどうかは、自分では何も分かりませんが、今は、謙虚な気持ちで純粋に学び続ける生徒たちと接していて、いとおしさと共に畏敬の念が溢れるようになりました。

筆者の後藤雄二さんのことが、文部科学教育通信に掲載されましたので。転載して紹介いたします。

私の放送大学 ⑭

通信制だからこその環境

後藤　雄二（神奈川学習センター）

私が文学研究の面白さを知ったのは、大学の国文学科で学んだことがきっかけでした。木山捷平の小説や詩に出会い、心躍る気持ちで卒論を書き上げました。私は大学卒業後の約二〇年間、仕事の傍ら、木山の小説の研究をさらに進めていました。その独特な創作法や題材の取り方等に、大きな興味を抱きました。また、庶民的で周囲の人たちに愛された木山の人物像に、少しでも接近できるような文学研究を続けたいと切望していました。

漠然と、いつか大学院へ進学し、論文をまとめたいと考えていた私は、ある時、放送大学大学院に国文学関連のゼミがあることを知りました。他大学の大学院も調べていましたが、仕事を持ちながら研究を進めるには、放送大学大学院が最適でした。すぐに出願を決意し、私は平成十六年四月に入学を果たしました。

月に一度のゼミでは、近代文学研究の権威である一流の指導教授と、心静する作家や作品を個々に持つ仲間たちに恵まれ、有意義な二年間を過ごしました。私は平成十八年三月に修士課程を修了しましたが、指導教授を囲む親睦会は現在も続き、修了した今も、仲間同士、互いに交流を深め、文学の醍醐味を堪能しています。木山捷平の研究は私のライフワークだと決めています。現在は、木山の詩・短歌・俳句の研鑽も積んでいます。

神奈川学習センターに所属する私は、大学院入学当初から、「神奈川放友会」というサークルに参加しています。充実した学生生活を送るために仲間が集い合い、共に学び、共に遊ぶ、このサークルが大好きです。人生を語り合える大勢の方々との出会いがありました。学習センターへ足を運びますと、私には、このサークルは一つのクラスのような感じがします。確かな心の拠り所が、放送大学にはきちんとあるのです。

通信制大学と言いますと、孤独な学習に終始するばかりのような印象を与えることがありそうですが、放送大学では決してそのようなことはありません。むしろ通信制だからこそ、人と人とのつながりを、放送大学という環境は、より一層大事にしてくれているのかもしれません。

（ごとう　ゆうじ）
一九六〇年　京都市生まれ
一九八五年　神奈川県に転居、横須賀市の学習塾に就職
二〇〇四年　大学院総合文化プログラム（文化情報科学群）修士課程入学
二〇〇六年　大学院修士課程修了
現在　学習塾の主神を務めながら、文学研究、小説創作等に励む。通科履修生

17　文部科学教育通信 No.241　2010-4-12

「放送大学というビーグル号に乗って」

西山　哲郎

進化論で有名なチャールズ・ダーウィンは、「最後まで生き残るのは、最も強いものでも、最も賢いものでもなく、最も変化に適応できるものである」と述べています。長寿化した私たちにとって、変化に激しい現代社会を、20歳前後で学んだことで乗り切ることはますます難しくなっています。変化に適応するために、放送大学は、ひとつの有力な解です。私も会社での業務が変わるような度に、放送大学で学んだことが役にたちました。こんなことを書きますと、職業訓練を目的としたキャリア志向の大学と思われるかもしれませんが、放送大学は同時に「癒しの大学」でもあります。好きなことを自分の好きなペースで学習できる、それも学習する分だけの学費で済むという高等教育機関は他にあるでしょうか。神奈川学習センターに来ていただければ、サークル活動など学生たちが交流する機会は多々あります。もちろん、自宅で勉強して、試験と面接授業のためだけセンターに来るといった方法でも卒業はできます。センターや教授、同級生との付き合い方も決めるのも皆様次第で、自由度が高い大学といえます。自由度が高すぎるために何をしたらよいのか分からないという学生の方には、科目の登録法なども含めて、神奈川学習センターではボランティアが相談にのっています。私も現役学生ながら、卒業生としてボランティア相談に参加しております。

今後の日本を考えるとき、このボランティア或いは協働という言葉も一つの鍵と考えます。

日本経済も成熟期に達し、決まったパイの中での競争はむしろ経済成長期より激烈になります。今後は経済的な見返りを求めて働くのではなく、周囲のために見返りはなくても自分の経験や能力を活かすために働くことが多くなるでしょう。神奈川学習センターでは、大学側の支援を受けつつ多くのボランティアが活動しています。

神奈川学習センターのように地域に根ざした学習センターがあるというのも放送大学の大きな特徴であり、地域を主題とした面接授業だけでなく、地域関連の行事も多く行なわれています。将来の日本は「協働」と「地域」にかかっていると考えても過言ではないと思います。

その意味では、放送大学は、日本の縮図ともいえ、授業だけでなく、学習センターに行事などでも私は色々と学ぶこと、考えさせられることが多くあります。

私は、米国に4年間、中国に3年間滞在し、両国でも社会人向けの大学教育に参加しましたが、内容、柔軟性、厳格性、費用などを総合的に勘案して、日本の放送大学は世界に誇るべき遠隔高等教育機関であると思います。この日本の宝とも言うべき放送大学に多くの学生が集い益々発展することを祈念してやみません。

ダーウィンは、帆船ビーグル号で航海にでるとき、学者仲間の生物学者から標本や化石を集めるように言われた地質学者でした。地質学者に進化論を書かせたビーグル号、放送大学は正に私たちにとってのビーグル号です。

プロフィール：1963年、東京都出身。逗子市在住。放送大学には科目履修生として1993年に入学。2009年9月に「生活と福祉」専攻で卒業。「自然と環境」で再入学。現在は、貿易会社で食品安全を担当。過去には、食品貿易、食品開発、食品製造、育種なども担当。米国に4年間、中国に3年間赴任経験あり。趣味は、放送大学、旅行、ボート、外国語学習。

学生生活に関するアンケート

機関紙編集チーム　木下　義則

平成22年度1学期入学者の集い(4月4日開催)のとき実施しました学生生活に関するアンケート集計結果についてご報告いたします。

１．全配布数…２５０人
２．回答数…１５３人（回収率…６１．２％）

３．属性
ａ）学生種別

全科履修生	60	39.2%
生活と福祉	10	16.7%
心理と教育	22	36.7%
社会と産業	5	8.3%
人間と文化	9	15.0%
自然と環境	8	13.3%
専攻未記入	6	10.0%
選科履修生	35	22.9%
科目履修生	33	21.6%
修士選科生	12	7.8%
修士科目生	4	2.6%
種別未記入	9	5.9%

ｂ）入学区分

新入学	39	86.7%
再入学	3	6.7%
未記入	3	6.7%

ｃ）性別・年齢別

	男性		女性		性別合計	
	79	52.3%	72	47.7%	153	
１０代	0	0.0%	1	1.4%	1	0.7%
２０代	8	10.1%	8	11.1%	16	10.5%
３０代	4	5.1%	13	18.1%	17	11.1%
４０代	9	11.4%	22	30.6%	31	20.3%
５０代	18	22.8%	14	19.4%	32	20.9%
６０代	24	30.4%	8	11.1%	32	20.9%
７０代	12	15.2%	4	5.6%	16	10.5%
８０代	3	3.8%	0	0.0%	3	2.0%
年齢未記入	1	1.3%	2	2.8%	3	2.0%
性別・年齢未記入					2	1.3%

d)入学動機

入学動機はさまざまであるが、「生涯学習」への志向が全体の25％と高く若年層を含む全ての年代で平均的に出ているのが特徴である。次に高いのが「大学卒業資格取得」(20．3％)で40歳代以下で67％を占める。

以下「スキルアップ」(14．9％)、「教養をつけたかった」(14．1％)、「余暇の有効活用」(8．7％)、「公的資格取得」(7．1％)「大学院入学準備」(5．8％)、「放送大学エキスパート」(2．5％)となっている。

4．学習センターの利用について

学習センターの利用については、「単位認定試験のみ」と答えた人が3％と非常に少ない、毎回同様傾向であり、入学者の集いに参加する新入生はセンターを積極的に活用しようという気持ちが強い。

項目別では、「再視聴を利用」が一番多く36％であり、「図書室を利用」が24％、次いで「面接授業に参加」が21％である。,これらの項目別は毎回同程度の利用率である。「サークル活動に参加」という項目では4％と低い率となっており、学生全体のサークル参加率と同程度の回答率となっている。

5．学習生活で迷ったときの対処法

前回調査同様「学習センターの事務室に相談する」という回答が圧倒的に多く52%を占めている。事務室への信頼の高さが伺える。次に「学習相談会等を利用する」(２７．３％)で、「先生に相談する」(１３．１％)と続く。「知人に相談する」(5･5％)が毎回少なく放送大学の学生の特徴といえる。

6．研修旅行について

「参加したことがある･参加したい」が約56％と多く積極的参加姿勢が感じられる、特に50代以降の学生の参加希望率が高くなっている。

7．サークル加入に関すること

サークル加入に関することは「入っていない･入るつもりはない」が圧倒的で46％を占める結果となった。その理由の80％が「時間がない」であり50代以下の現役世代が多数を占める傾向にある。無回答が50代以上の人を中心に24％と多かったのが気になる

ところである。(サークルに対する不信感でなければ良いと思うのですが。)

8. フェスタ・ヨコハマについて

フェスタ・ヨコハマは「参加しない」「知らない」の合計と「参加してみたい」人の割合がほぼ同数で、過去の調査と比較すると「参加してみたい」人の割合が高くなっている。

9. 学習相談会について

学習相談会については「相談してみたい」という回答が圧倒的で58%を占めている、5項の学習生活で迷った時の対処法における傾向とは異なり、学習内容に限ってみると相談する機会があれば利用したいという希望の表れか,男女比をみると女性のほうが相談希望率が高くなっている。(男性51. 9%、女性70. 8%)

10.「センターだより」について

センターだよりの掲載内容については項目別に大差がなく、8%～20%となっている。「学習センターからの事務連絡」(20. 1%)「面接授業の話題」(13. 0%)「講演会・行事の話題」(12. 4%)の順となっている。この傾向は前回以前の調査と同様となっている。

11.「チーム制サポーターシステム」について

チーム制サポーターシステムについては新入学生へのアンケートということで認知度が低いのは仕方がないと思うが「知らなかった」が55%を占める。(前回調査時71%、前々回調査時65%)

12.「大学や先輩から支援を受けられるとしたら何を希望しますか」の問いへの回答

・これから学生生活を送る上で必要なこと等を教えてもらいたい。

・資格を活かした仕事上で今のうちにした方がよいと思うアドバイス

・先輩個人の研究テーマ、個人史のお話を聞きたい

・卒業後に役立ったことを知りたい。(この科目のここが知識として必須、など)

・勉強のすすめ方や授業・試験についてのアドバイス

・大学院進学に関する諸々

・仕事と勉強とサークル活動をうまくこなすコツ。

・同じコース、受けたい授業、どのように活かしているかの具体的な情報

・レポート作成、就職、アルバイトなど

・仕事をしながらのより良い勉強方法。(試験対策等)

13.「放送大学へのご意見ご要望がありますか」の問いへの回答

・食堂や売店・購買部を作ってほしい

・研究室を設けて欲しい。通学生の大学と同じように教授の研究室に属することで、卒業後の見通しや、自己の専門性を高めることができる。所属資格を条件にして(例えば成績)意志のある学生に将来の道を大きく広げていただきたいです。

・他大学との互換性を高めて欲しい。

・科目生として1～2科目ずつ学習したいが、毎回入学料がかかり負担に思う。

・センター利用時、保育があると助かる。

・センター内での、学生どおしの交流はサークルだけではないと思います。課外授業とかも交流に役立つのでしょうか？

「サポーター」活躍中！　　Kーサポート

「サポーター」といえば、「サッカー」が思い浮かびますが、神奈川学習センターを支えるサポーター活動が「Kーサポート」です。

現在、『学習支援』・『機関紙編集』・『地域連携』・『バス研修・行事サポート』の４つのチームが、それぞれ「学習相談会などでの相談員」・「センターだよりの編集」・「ウォーキングイベントの準備」・「バス研修旅行の企画」に取り組んでいます（くわしい活動ぶりは各チームの記事をご覧ください）。

またチームでは、それぞれの行事へ学生の皆さんの参加を募るとともに、「サポーター」として活動を支える仲間も募集しています。神奈川学習センター所属の学生・院生・卒業生であれば、どなたでもサポーター登録できます。

ご応募の際は、学習センターの掲示板や事務室に備え付けの登録申込書に記入して事務室窓口にご提出ください。ご不明な点や、メールでのご応募は、Kーサポート事務局 ksupport@ouj.ac.jp で受け付けております。

また、談話室（学習センター2階）の電気ポットのあるテーブルの上のバインダーに、昨年度の活動を「2009年度 Kーサポート報告書」としてまとめたものがファイルされていますので、時間の許す方はめくってみてください。

皆さまからのお問い合わせやご応募を楽しみにお待ちしております。

Kーサポート事務局　垣谷江里子

Kーサポートからのお知らせ

○学習支援チーム

平成22年度第1学期の学習相談会は6月27日で終わりました。

今年4月入学の学生が多数相談に来られたのが特徴でした。また、繰り返して相談に来られる学生や我々相談員の手があいているときに雑談に来る学生も多く、学習相談会も定着しつつあると感じています。

第2学期の学習相談会は10月16日から12月19日までの、面接授業のある土曜日と日曜日の午後1時から4時の間に2階談話室の相談コーナーで行う予定です。

放送大学での学習に関して困っている点に限らせていただきますが、まずは気軽に何でも相談にきてください。

第2学期も通信指導について学習相談会で助言・指導します。ただし、授業科目の分野が広いことを考えると直接解答をお教しえすることは不可能ですが、お互いの議論のなかで正解にいたる道順を見つけられればと思っています。また一部は先生がたの協力を得ることも考えています。困っている方はぜひ一度相談にきてください。

○ウオーキングの会（地域連携チーム）

私たちの会は年1回、地域の方々・学生・教職員と共にウォーキング゛のイベントを行っています。

今年で3回目になりますが、横浜の港・街の発展を支えた吉田新田を取り巻く河川を中心に学習を兼ねたウォーキングをしてきました。

1回目は中村川沿いに、2回目は現在埋め立てら

れた運河・大通り公園・派大岡川沿いを、3回目の今年度は11月6日（土）に南区「蒔田公園」を出発して、大岡川沿いに横浜港の「臨港パーク」へと歩く予定です。緩やかなカーブを描く河川、川面に映る紅葉・橋の姿などの景観を楽しみ、港の発展を支え関外地区を流れる大岡川下流部一帯を周辺の生活や水運の状況などを学びながらのウォーキング"を企画しています。

当日は、約5kmの距離をリーダーがガイドしながら歩きます。昨年度は参加者のほぼ全員の方々が全行程を歩かれ、二次会では、大桟橋での夜景を満喫されました。今年度も最終地点臨港パークで、ベイブリッジ・つばさ橋を眺めながら、横浜港の黄昏をみな様とご一緒に過ごしたいと考えています。きっと素晴らしいひと時となることでしょう。チラシの配布が始まりましたら奮ってお申込みください。ご参加をお待ちしています。

○バス研修チーム

2010年度も10月に恒例の学生研修旅行を神奈川学習センターと協力して計画中です。『山梨の産業・文化・歴史を訪ねよう』をテーマに、山梨の代表産業であるワインの工場見学と試飲、ミレーの『種まく人』所蔵の山梨美術館、信玄ゆかりの恵林寺をそれぞれ、テーマにそって予定しております。

他のチームの皆さんの活躍ぶりに刺激され、主体的に活動することがチームの目標です。

皆さん、バス研修チームで活動しませんか、お待ちしています。（村田記）

投稿募集

学習センターだよりでは、みなさまの投稿をお待ちしています。分野は問いませんが、放送大学の学生にとって興味のもてる話題が好ましいです。また、ご投稿いただいてから、掲載時期、掲載方法についてご相談させていただくことがありますのでご了承下さい。

宛先は、電子メール：ksupport@ouj.ac.jp
〈Kーサポート事務局〉 または、神奈川学習センター事務室まで。

編集後記

表紙タイトルが「OUJ神奈川学習…」に変わりました。OUJって？・・・・・・放送大学の英語名「The Open University of Japan」の略で、この4月から放送大学のドメイン名（インターネット上の住所名）がOUJになったことを契機に学習センターだよりでも使うことになりました。

今号からの新しい試みとして、シリーズ「学びのすばらしさ」（不定期に掲載）がはじまりました。また、県立外語短大のご厚意により取材が実現して、単位互換の授業も取り上げることができました。このページと11ページのカット絵は、ペンネームyuuさんからいただきました。これからは、みなさんからの写真、絵なども掲載してゆけたらと思います。今号ではこの冊子、多くの方の手によって作られているのだと実感した編集になりました。

（H）

OUJ神奈川学習センターだより編集部
笠井、赤松、家田、木下、筥崎
（以上、Kーサポート機関紙編集チーム）
垣谷（Kーサポート事務局）
石塚（学習センター事務室）

学生サークルからのお知らせ

○神奈川放友会

“放送大学神奈川学習センターに学び、同じ志を持つ学生同士が集い、互に励ましあい共に楽しみながら豊かで実りある学生生活を送ろう”というサークルです。
今回は、人気の高い「一泊研修」の案内です。
★★日程:9月24日(金)～25日(土)★★
宿泊場所:大学本部セミナーハウス
1日目:☆本部図書館等見学　☆研究発表会
2日目:☆太極拳　☆バス観光・香取・佐原
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ→http://kanagawa-hoyukai.jp/
文書責任者　　神奈川放友会　金田　保男

○中国語学習会

☆学習日は第1、第3日曜日
10時～12時　中級(男性講師)
13時～15時　初級(女性講師)
詳しくは玄関横の掲示板をごらんください。
☆中国人講師の熱心な指導の下、学習に、会員間の親睦に、と　いい時間を過ごしています。
☆学習日に是非見学にいらしてください。
☆問合せ:万場(まんば)由美子
046-293-5521

○放大かながわレク・サークル

★パソコン部:個人のニーズに応じた学習。
学習日時:第1、第3水曜日　13時30分～15時30分。
場所:神奈川学習センター　実習室:申込制
★ウオーキング部:月1回、「東海道五十三次」実施中。名所旧跡文化施設等も対象
★ウオークラリー:横浜市中区主催に毎年参加
★その他観劇、観光、映画、美術鑑賞等。
上記の各種活動はいずれも自由参加。
―会員募集中(随時申込・受付)―
問合せ:佐々木恭夫Tel／Fax045-871-7700
E-mail ugk37913@nifty.com

○うえるかむKanagawa

☆英語を楽しみながら学ぶ会です。原則として例会は第2・4水曜日。10時15分からのRichard classは上・中・初級に分かれfree talkingをしながら表現を学んでいます。午後は13時15分からEnglish Songsの練習。13時30分から15時30分まで上・中・初級に分かれ自主学習。8月の例会は第1・4水曜日。
☆原則として奇数月の第2水曜日の13時から「うえるかむ名画座」開催。
次回は9月8日13時、懐かしの西部劇“Yellow Ribbon”を上映予定。どなたでもどうぞ。(石橋記)
連絡先:星 reikosunflower@yahoo.co.jp

○人間学研究会

1. 例会の予定(いずれも午後1時開会)お問い合わせ・参加申し込み:安田武夫TEL045-775-0879
9月5日(日)神奈川学習センター学園祭フェスタ・ヨコハマ
9月12日(日)「2つのドイツ人俘虜収容所 」
10月3日(日)「ショパン生誕200年 」
2. 歩きましょう
(お問合せ:大出鍋蔵　TEL046-841-7937)
8月14日～18日「花のカムチャッカ・アバチャ山登頂ツアー 」
8月26日～27日「「日本三大奇祭の吉田の火祭りツアー」
10月下旬　第1回「成田街道ウオーク」

○韓国語同好会

月例会;毎月第一・第三土曜日10:00～12:00
13:00～15:00
※午前、通常学習
講師:横浜国大研究員　金蘭美先生
※午後、初歩の韓国語・自主学習
※ホームページご覧ください。投稿自由！
ホームページ　http://www.hangugo-club.org
連絡先　murata@hangugo-club.org
電話/Fax 045-864-6551(村田)

○ダンスサークル（社交ダンス）

レッスン日　毎月第2第4火曜日
時　間　　午後2時～4時まで
場　所　　第7講義室　当日入り口に掲示
内　容　　初歩的なステップより指導
　　（ブルース、ワルツ、ルンバ、ジルバ等）
体育実技の単位取得可能です
親睦旅行やパーティを実施してます
何時でも入会出来ます。
連絡先　TEL045-933-9753　　宮川　京

○神奈川合唱団

楽しく一緒に歌いましょう
　9月4日（土）に学園祭フェスタ・ヨコハマの行事として「うたごえ喫茶」行います。入場無料です。
　私たちは専門の先生のもと柔軟体操、発声練習と力を入れた指導を受けています。練習では洋の東西をを問わず懐かしい歌、新しい歌、馴染みの深い叙情歌等（赤いくつ、芭蕉布、野に咲く花のように、学歌）唱っています。又合唱を通し合間には、学習についての情報交換を行い交流の場ともなっています。練習日時大岡地区センター音楽室、月2回（第1、第3水曜、6時～8時30－お気軽に見学して下さい－　問い合わせ0466-34-7545家田　　045-288-0655赤松

○資格取得研究会

　看護、福祉分野のキャリアアップや就職を目指す集まりです。現在、看護師を目指している方が半数です。内容は例会（情報交換）と講演会の聴講など。
これからの例会予定
・8月22日（日）10:00～神奈川学習センターにて
・9月5日（日）10:00～　フェスタ・ヨコハマに参加
・10月3日（日）13:00～神奈川学習センターにて
会費：￥500（1年間）
ホームページ…http://shikaku.yumesora.net
お問い合わせ…080-5546-7913（はこざき）

神奈川同窓会からのお知らせ

神奈川同窓会、今年は創立20周年！
フェスタ・ヨコハマでの「お抹茶コーナー」を今年も行います。今回は、お客様の前でお点前をすることにして、さらに茶席の雰囲気を感じていただけるようにします。実際に体験していただける人数も、昨年より多くしていきます。「ビンゴゲーム」とともに、楽しいフェスタ・ヨコハマになりますよう頑張ります。

今年創立20周年となった同窓会、秋に『波濤』特集号として記念誌を発行します。編集委員会で内容の検討に入っております。ご期待ください。

第24回神奈川学習センター学園祭 フェスタ・ヨコハマのお知らせ

平成２２年９月５日（日）開催
（一部は、９月４日（土）に行います。）
９月５日（日）
記念講演～１０：００から１２：００まで
「幽玄の系譜～和歌に始まり、能を経て美術工芸品にいたる日本の美意識～」
講師：三宅　晶子　横浜国立大学教授
交流会～午後
焼きそば、いなり寿司等の食べ物と、ビール系の飲料、ソフトドリンク等を用意しております。コーヒーコーナー、中国茶、韓国飲料、かき氷などの模擬店風のコーナーや、ビンゴ大会、俳句・川柳大会。そして、別室人数限定でお抹茶コーナーも開かれます。
参加には、参加券（頒価¥1,000-全行事参加可）が必要です。単位認定試験期間中に学習センターロビーにて頒布ますのでお求め下さい。
９月４日（土）は、全て参加券不要の行事で、人数限定お抹茶コーナーなどを開催します。
４日、５日通して、サークル展示、写真等の作品展示があります。行事詳細は、ポスター、ちらしをご覧ください。
お問い合わせは、tel:　080-5546-7913
mail: festa@yumesora.net（広報担当はこざき）

学習センターからのお知らせ

◆学生募集について◆

学ぶ喜びをより多くの方々に知っていただきたいと思い皆様のご家族･ご友人･知人に放送大学の魅力や利用方法をご紹介下さるようお願いします。

【平成２２年度第２学期入学（１０月入学）の教養学部生、大学院修士選科・科目生】
募集要項配布期間 ：６月１日(火)～８月３１日(火)
出願受付期間 ：６月１日(火)～８月３１日(火)

【平成２３年度第１学期入学（４月入学）の大学院修士全科生】
募集要項配布期間：６月中旬 ～９月上旬
出願受付期間 ：８月２０日(金)～９月１０日(金)

※オープンキャンパス 8月7日(土)、8月8日(日)両日とも14:00～16:00に開催。
個別相談会 8月21日(土)～8月31日(火)【(月)を除く】
各日とも:午前10:00～12:00、午後2:00～5:00に開催(予約制)
～皆様の多数の参加をお待ちしています～

ご家族･ご友人･知人の方を「神奈川学習センター」にご紹介下さい！

◆科目登録申請について◆

平成22年度第2学期の科目登録申請は下記のとおりです。登録を忘れないようご注意下さい！！

申請期間:平成22年8月5日(木)～平成22年9月3日(金)
対象学生:平成22年度第2学期に引続き学籍がある方
注意事項:◎在学生の次学期の科目登録(放送授業及び面接授業)申請です。
入学(出願)手続きとは申請期間が異なります。
◎インターネットでの科目登録も可能です。詳細は、「科目登録申請要項」をご確認ください。

◆特別聴講学生募集について◆

放送大学(神奈川学習センター)では、**横浜国立大学**と**神奈川県立外語短期大学**が放送大学と相互に単位を互換する協定を結び、双方向による単位互換を実施します。

これにより、放送大学の学生(全科履修生)は、単位互換協定を締結している**横浜国立大学と神奈川県立外語短期大学**の授業科目を履修することができ、修得した単位は、放送大学の単位として認定されます。

平成22年度第2学期(後期)の募集については7月以降に神奈川学習センター掲示版･ホームページで周知いたします。

１．出願資格 ①全科履修生
②本学の在学年度が１年以上の者
③放送授業科目において３０単位以上を修得した者
（出願先「横浜国立大学または神奈川県立外語短期大学」へ通学が可能である者。）

２．出願のための履修相談先

神奈川学習センター事務室窓口